

# 令和6年度 精華学園高等学校 自己評価表

学校教育目標	<p>教育目標：徹底的に生徒の立場に立ち、あたたかく、かつ甘えの無い指導を貫く。</p> <p>中・長期目標：生徒自ら未来を切り開けるよう、生きる力、自立心、心豊かな逞しい精神を備えた生徒を育成する。</p>
現状分析	<p>①生徒自らが自分の進路を見出し、その進路実現に向け意欲的に行動させるための指導を強化する必要がある。</p> <p>②生徒の自立心を育み、社会性を身に付けるための生活指導を強化する必要がある。</p> <p>③学習習慣、基礎学力が不足している生徒が多いため、進路実現に向けた学習指導を強化する必要がある。</p> <p>④通信制の特色から個別学習が多くなるため、学校行事等を通じ、協調性を身に付けるための機会を増やす必要がある。</p> <p>⑤通信制の特色を活かし普通教科の学習に加え、資格や技能・技術を取得する機会を増やす必要がある。</p>

## 単位制による通信制の課程

達成度	A	ほぼ達成 (80%以上)
	B	概ね達成 (60%以上)
	C	現状維持 (40%以上)
	D	不十分 (40%未満)

学校自己評価							
年度目標				年度評価			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診断を毎年必ず受診させる。</li> <li>資格や検定の受験を奨励すると共に、受験に向けての指導の充実を図る。</li> <li>学習拠点周辺の巡回指導は、さらに定期的に行う必要がある。</li> <li>生徒が主体的に参加できる企画や行事を増やし、役割と課題を与える。</li> <li>タブレットの導入等を通じて、ICT教育を推進させる。</li> <li>スクーリングやレポート添削、テストの実施に関して、ガイドラインに基づいた運営を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の定着とともに、生徒の登校日数を増やす。</li> <li>資格試験や検定の受験者・合格者数を増やす。</li> <li>問題行動予防に対する校内指導体制の確立。</li> <li>生徒が主体的に参加できる仕組み作り。</li> <li>生徒がタブレットで学習できるコンテンツの拡充。</li> <li>学習指導・評価等の適正な実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎講座（英語・数学・国語）および、各種検定試験合格講座の開設。</li> <li>授業や各種講座の実施時期について、効率的な教育活動計画。</li> <li>校内の巡回指導による問題行動の予防。</li> <li>生徒を励まし、注意を促す声かけ・挨拶の励行。</li> <li>学校行事の充実と工夫、さらに積極的な参加への呼びかけの工夫。</li> <li>レポート指導、スクーリング、テスト等の適切な実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職した卒業生の追跡調査。</li> <li>生徒にどのように自信をつけさせ、モチベーションをすればよいか。</li> <li>個人面談や保護者相談の内容や回数は充実しているか。</li> <li>生徒の登校率や、行事への参加状況の把握</li> <li>全教職員による声かけ、挨拶運動を継続して行っているか。</li> <li>生徒情報をシステムに登録し、教員間での情報の共有を図っているか。</li> <li>健康診断が各地の医療機関で適切に行なわれているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>声掛けや挨拶を通じて良好なコミュニケーションが築かれ、生徒の特性に応じた指導が行われている。</li> <li>日本語検定2級の合格者が出るなど、資格取得において成果が見られた。</li> <li>生徒が主体的に関われるコースや行事、清掃活動などが積極的に実施され、主体性を育む取り組みが行われている。</li> <li>スクーリングやレポートは概ね適切に実施された。</li> <li>学校安心メールを活用し、安全確保と迅速な情報伝達を図った。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットや学習支援コンテンツは、生徒の利用状況を把握し、意見を取り入れながら活用の質を高めていく必要がある。</li> <li>生徒の主体性や興味を引き出し、個々の力を伸ばせるような行事や学習指導の継続・充実を図る。</li> <li>生徒数の増加や多様なニーズに対応するため、業務の簡略化・デジタル化・クラウド化を進め、新たな業務形態の構築が求められる。</li> <li>レポート提出遅れやスクーリング未消化の生徒には状況把握のため連絡を取りつつ、特性に配慮し過度な負担をかけないよう留意する。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>進学実績を出せる生徒の募集方法をさらに工夫する。</li> <li>学校ホームページのスマホ対策。</li> <li>資料請求数の増加策。</li> <li>特に進学校としての実績づくりと新たな教育を打ち出すためのコース戦略。</li> <li>見学者の入学率をどのようにアップさせるかが課題。</li> <li>保護者への連絡をさらに密にすることが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内、県外高等学校、中学校に対する進学実績の情報提供。</li> <li>学校見学会、個別相談会への動員確保の工夫。</li> <li>インターネットでの情報発信（学校HP等）。</li> <li>大学進学実績等の広報や新コースの創設。</li> <li>保護者への連絡手段の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校、中学訪問を中心に指定校・推薦大学の情報提供を拡大。</li> <li>本校生徒の具体的な進学状況を伝える資料の作成配布。</li> <li>学習カリキュラムの可視化による生徒募集を円滑に進める。</li> <li>学校見学会と個別入学相談だけでなく、体験学習会も拠点ごとに企画。</li> <li>学校ホームページの改訂と定期的な更新。</li> <li>全教職員が入試、生徒募集業務に意欲的に取り組み、学校訪問・見学者対応・HP</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校、中学校訪問を学校の紹介を一方的に行うやり方ではなく、基本的な人間関係を築きながら、相手の要望を聞きだしているか。</li> <li>資料請求、学校見学会参加者が増加したか。</li> <li>本校ホームページへのアクセス数が増加したか。</li> <li>入試業務をミスなく円滑に行う。</li> <li>家庭への連絡を増やして、覚書への入力が増えたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページや学校新聞で学校行事や表彰内容を積極的に発信することに努めたが、スマホ対応は今後の課題である。</li> <li>美術系進路や興味関心に応じた新コースを設置し、通学圏の生徒が魅力を感じる取り組みを進めている。</li> <li>保護者への連絡は電話や封書が中心だが、郵送のトラブルやコスト面から、デジタルツールの活用による見直しが必要である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページのスマホ対応を含めた情報発信の改善を進める。</li> <li>保護者連絡については、履歴が残る専用アプリなどを視野に、負担の少ない手段を検討すべき。</li> <li>デジタルのスキルの育成と生徒自らICTやAIを活用できる能力を養うことができるようにする必要がある。</li> <li>広報に特化した職員を配置する必要がある。</li> <li>ホームページにアクセスカウンターを導入する。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業生の進学率増加を目指す。</li> <li>指定校推薦枠の拡充。</li> <li>進学コースや基礎基本徹底コースの生徒を増員させる方策。</li> <li>日本語検定・英語検定・数学語検定などの資格を取得させ、大学進学実績を増やす。</li> <li>入試改革に向けて教員全体の意識改革と、具体的な授業改善を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来への展望を明確に持ち、自己実現に向けて着実に努力する生徒を育成する。</li> <li>個に応じた進路指導と保護者との連携。</li> <li>難関大学や最難関大学への合格実数を増やす。</li> <li>生徒の主体性を重視して課題解決型の教育を導入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格や検定受験を奨励し、将来の進路へつなげる。</li> <li>進路説明会や体験学習会の内容を充実させる。</li> <li>進路室や掲示板、広報誌等の活用と個別進路指導の充実。</li> <li>進学コースで難関大学進学指導を充実させる。</li> <li>新テストに対応するための思考力・判断力を生み出すレポート課題の作成、及びスクーリング方法を各教科でまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国公立大学、難関私立大学への受験者、合格者が増えたか。</li> <li>卒業生の進路実績が向上したか。</li> <li>全国の学習拠点での進学実績が伸びているか。</li> <li>将来の進学や就職に有利なコミュニケーション能力を育成する。</li> <li>生徒の興味・関心と社会的課題を結びつけ、解決に向けての学びを自分で設計し、実行してきたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らオープンキャンパスキャンパスに足を運ぶ生徒の様子も見られ、将来を見据えた様子が一部の生徒に定着してきた。</li> <li>生徒の可能性や長所を引き出し、前向きな選択肢を提示できるような進路指導をさらに充実させていきたい。</li> <li>通信制高校の特色を生かした、個別対応、保護者との連携が卒業でなく、進学や就職への意欲向上につながっている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力支援と並行して進路指導体制の充実を図る。</li> <li>生徒が卒業後のビジョンをより具体的、現実的に描けるよう社会体験の機会をより充実させる必要がある。</li> <li>地域や関係機関とのより一層の連携を図り、生徒一人一人が社会の一員であることを自ら自覚し、充実した生活を送れるよう促す。</li> </ul>

学校関係者評価	
実施日 令和7年6月～	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>早期からタブレット端末の導入に取り組みされており、着実に成果が出ていると感じられる。</li> <li>業務内容の簡略化やデジタル化・クラウド化、新たな手続き方法の開発などをさらに進める必要がある。</li> <li>生徒・保護者の要望を積極的に取り入れながら、教育計画を策定・実行しており、四半期ごとに見直しを行っている。</li> <li>教育計画の内容は、個人面談や保護者面談で得られた意見・要望に基づいており、現実性が高く、社会が求める人材育成プログラムとなっている。</li> <li>教育計画を効率的に進めるため、生徒とのコミュニケーションを大切にしている。その結果参加率が年々増加している点が評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マスメディア対応や教育監査への確実な対応、全国学習センターや中学校との連携、丁寧でわかりやすい学校説明会の実施、さらにホームページでの最新情報の発信など、多角的な取り組みを通じて、単位制・広域通信制高校としての特徴と優位性を効果的にアピールしており、高く評価される。</li> <li>ホームページにて進学実績や声優コースのオーディション実績などが、分かりやすく公表されている。また有名国公立・私立大学への多数の合格者を輩出しており、実績を着実に築いている。</li> <li>今後さらに加速するデジタル社会に対応し、教育現場として時代を生き抜く力を育む人材育成に、これまで以上に力を入れる必要がある。</li> <li>生徒が主体的に勉強できる環境と、個人の能力を最大限発揮させる事ができる優秀な教員が揃っていることから、意欲を持って大学受験に臨んでいるため、合格率が向上している。</li> <li>大学受験に留まらず、『ものづくり』の基本となる専門知識や技能、組織力を発揮するために必要となるコミュニケーション能力の指導も充実しており、学校の理事を中心に社会で学んできた体験に基づいた社会勉強も、生徒の道しるべとなっていることが評価される。</li> <li>体験型学習をこれまで以上に拡充するなど、コミュニケーション能力の育成を図ることで、卒業後の進学・就職先での対人関係の構築の助けとなり、社会全体のつながりを強く思うように思う。</li> </ul>